

心の花美術館 2周年特別企画

# 植物園 — 油彩・版画・陶 —

2016年 3月19日(土) - 4月17日(日) 10時-17時 火・水曜休館

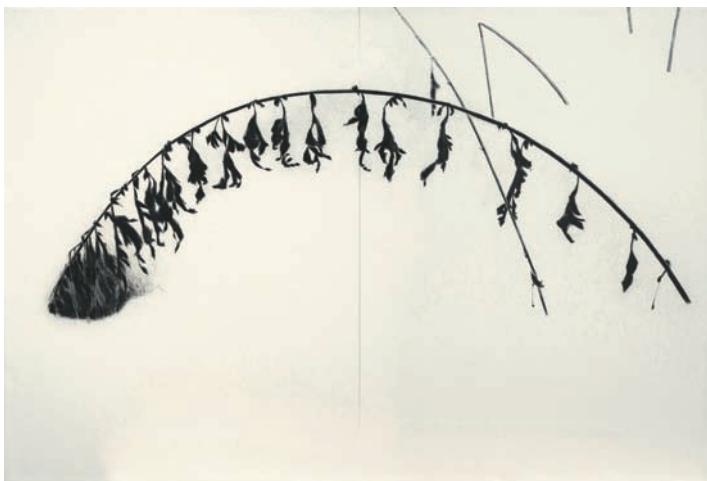
4月9日(土) アーティストトーク&朗読と音楽演奏を行います（裏面をご覧下さい）

ART空間を共有できる方々に支えられ、好きな作品たちを贅沢に展示してきました。

今回の展覧会のテーマ「植物園」は長い冬を耐えながらも営みを繰り返す、名も無き植物のように  
今後もまちなかの小さな美術館として、微力ながら地道に発信し続ける存在でありたいと願っております。

心の花美術館 加藤泰子

入館料 一般：300円 シニア(70才以上)・身障者：200円 学生(小学生～高校生)：150円



■中村真美子 mamiako nakamura 「秋から冬へ13」 60×90cm ドライポイント

草は枯れてゆくとき、いったい何を思うのでしょうか。  
定められた場所で、ときに雨や風にうたれ、雪に埋まり、ながい時間を重ねて、ただ一つの姿になってゆく。  
その瞬間と空間とを切り取り、美しさを浮かび上がらせてみたい。そんな思いから枯れ草の風景を描いています。  
雪と枯れ草が共同でつくる造形、風景は、思いもよらない美しさで、雪国で生まれ育った私はつよく心を惹かれます。  
枯れ草の、豊かで静かな美しさをお伝えできればうれしいです。

1972年 長野県上水内郡信濃町生まれ、長野市在住  
2003年 版画家・故山下孝子氏に師事、版画を始める  
2014年 信濃毎日新聞コラム 柳澤寿男「心をつなぐタクトの調べ」挿画担当（4月から1年間）  
個展作品発表の中心として活動



■原田正有 masatomo harada 「木の陰から」 81×110cm キャンバスに、油彩

光と陰の中に生成する自然の植物、それを緻密に描くのが目的ではない。より深く生命を描きたい。  
モチーフから反映される、心のめりや感傷にも似た心象風景を表現できたらと願う。  
自分で捉え難い奥深い所に潜む何かが、時を逆流させ心にハレーションを起こさせていると評されたが  
そんな瞬間に共鳴して頂ければと思う。

1968年 奈良に生まれる。  
1995-99年 デュッセルドルフ芸術アカデミー絵画科 ヤン、ディベツクラス在籍  
1997年 旅行奨学生（ニューヨーク、ボストン）  
1998年 マイスター・シユーラー修得（ヤン、ディベツクラス）  
1999年 ディプロム修得（アカデミー・ブリーフ）  
2014年 帰国  
2015年 個展『風景・心象・光と陰（ドylls in 23 years of the tracks）』ギャラリーKANI（東京）



■坪内真弓 tsubouchi mayumi 「とりあえず一杯どうぞ」 @50×50×50cm 陶

大切な時間を 共にすごした人達が  
ちょっとでも嬉しくなったり  
ときめいたり クスッとしたたり...  
いつの間にか仲間意識が生まれて  
特別な時間になっている  
「とりあえず、一杯どうぞ」

1972年 長野県上田市に生まれる  
1999年 長野県上田市に葵窯を築窯  
2008年 朝日陶芸展 長野美術展 知事賞  
2009年 日展  
2010年 SICF12（スパイラル・東京）  
2011年 長三賞常滑陶芸展  
2015年 神戸ビエンナーレ・現代陶芸コンペティション

心の花美術館  
art collection museum

美術館専用駐車場2台あり（その他、近隣の有料Pをご利用下さい）

〒386-0012 長野県上田市中央2-7-23 TEL/FAX : 0268-22-0022

HP : 心の花美術館▶（検索）でご覧頂けます